

2020年8月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2020年7月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	61,375,642 万円	100.0%	106.2% (105.5%)	59,537,297 万円	105.2% (104.1%)
食 料 品	52,914,906 万円	86.2% (85.4%)	107.5% (105.8%)	51,542,455 万円	106.2% (104.4%)
農 産	8,012,426 万円	13.1% (13.1%)	114.3% (110.3%)	7,808,715 万円	112.8% (108.7%)
水 産	5,231,966 万円	8.5% (7.9%)	111.9% (108.3%)	5,095,074 万円	110.5% (106.7%)
畜 産	6,724,157 万円	11.0% (11.0%)	111.3% (108.6%)	6,543,953 万円	109.8% (106.9%)
惣 菜	6,022,211 万円	9.8% (9.4%)	102.0% (101.1%)	5,841,928 万円	100.4% (99.4%)
日配食品	11,874,211 万円	19.3% (19.6%)	105.7% (105.8%)	11,576,805 万円	104.5% (104.4%)
加工食品	15,049,934 万円	24.5% (24.3%)	105.0% (103.5%)	14,675,981 万円	103.9% (102.3%)
生活関連	3,924,122 万円	6.4% (6.5%)	109.5% (110.3%)	3,833,346 万円	109.2% (109.2%)
衣 料 品	1,355,275 万円	2.2% (2.8%)	86.7% (97.7%)	1,300,746 万円	88.0% (97.9%)
そ の 他	3,181,338 万円	5.2% (5.3%)	93.0% (99.0%)	2,860,750 万円	93.2% (97.1%)

② 数 値

全店総売上高	61,375,642 万円	店舗数	4,841 店舗
総売場面積	9,385,733.6 m ²	総従業員数	259,192 人

店舗平均月商	12,678.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,072.4円 (110.1%)
月間m ² 売上(前月)	6.5 万円 (6.4万円)	平均売場面積	1,938.8 m ²
月間坪売上(前月)	21.6 万円 (21.3万円)	パート比率(前月)	76.8% (76.9%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 7月の天候について、「令和2年7月豪雨」が発生し、降水量は東・西日本でかなり多く、東日本と西日本の太平洋側、西日本の日本海側で、それぞれ7月として1946年の統計開始以来第1位の多雨となった。また日照時間についても東日本と西日本の日本海側、東日本と西日本太平洋側で、それぞれ7月として1946年の統計開始以来第1位の少なさとなった。気温は、西日本でかなり低く、東日本で低くなった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物のうち野菜は月間を通じて高値が続き、果物も下旬に大きく高値へ動いた。水産物は前月に比べてやや強含みなものの、前年同月並みの推移であった。畜産物は、牛肉で和牛、国産牛の相場は低調であった。豚肉は出荷頭数が減少傾向、輸入チルドポークが比較的高値などから、全体として相場は前年同月を大きく上回った。鶏肉は引き続き高値であった
- ・ 前年と比べ祝日が1日多かった
- ・ 新型コロナウイルス感染症の陽性者数は、7月下旬には5月の緊急事態宣言時よりも大幅に多く、全国で1日当たり1000人を超える日が続いた
- ・ 7月1日より全国でプラスチック製買物袋の有料化が始まり、ショッピングバックやゴミ袋が伸長した
- ・ 前年に比べ、客単価（買上点数・1品単価）が上がり、客数が下がる傾向が続いている

《 商品動向 》

○農産

- ・ 野菜は相場の高騰も重なり、売上が好調であった
- ・ 先月に引き続きジャガイモを中心とした土物や、キャベツやレタスなどサラダ野菜の主力品が、相場高に伴う販売価格の上昇により、売り上げが好調となった
- ・ きのこと類は、相対的に販売しやすい価格で好調であった
- ・ 国内果実では、スイカやモモが相場高もあり、好調であった
- ・ 輸入果実では、キウイフルーツやオレンジで好不調が分かれた

○水産

- ・ ウナギは昨年に比べて売りやすい価格となったこともあり、国産・中国産ともに好調であった
- ・ マグロや切身、塩干類や寿司が好調であった
- ・ シーフードミックスなど簡便品を中心とした冷凍魚が好調であった

○畜産

- ・ 牛、豚、鶏、挽肉、加工肉と引き続き全般に好調に推移した
- ・ 牛肉は、外食自粛による内食需要で、焼肉用やステーキ用を中心に好調であった
- ・ 銘柄豚や銘柄鶏が好調とのコメントがみられた

○惣菜

- ・ うなぎ関連が好調であった（蒲焼、丼、重）
- ・ 天ぷらやフライ、揚げ物で好不調が分かれた
- ・ 家飲み需要で小量目のおつまみや焼き鳥が好調とのコメントがみられた
- ・ 祭りがなくなり、予約が入らなかったとのコメントがみられた

○日配食品、加工食品

- ・ 野菜相場高騰により、漬物が好調であった
- ・ コロナ禍による内食需要の高まりで、チルド麺類・インスタント麺が好調であった
- ・ ヨーグルト・納豆などの免疫の商品軸は好調であった
- ・ 長引く梅雨と気温環境により、アイスクリーム・氷菓、飲料（炭酸・お茶など）が不調であった
- ・ 家飲み需要でレモンサワー類のR T D、珍味・豆菓子類が好調であった一方、ビールは不調であるとのコメントがみられた

○土用丑の動向について

- ・ 土用丑では予約、店頭売りとも好調であった
- ・ お寿司（うなぎ棒ずし、うなぎぎりなど）が好調であった
- ・ 新型コロナ感染症対策として店頭焼きを中止したとのコメントが見られた
- ・ 販売が好調であったため、フードロスが減ったとのコメントが見られた

○ギフトの動向について

- ・ 宅配ギフトが好調である一方、持ち帰りギフトは不調であった
- ・ 生鮮ギフトは好調・不調が分かれた